

# 会 議 録

## 1 会議名

令和7年度第6回板倉区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

○自主的な審議（公開）

・住民ワークショップ成果報告と今後の方向性について

○報告事項（公開）

・「上越市過疎地域持続的発展計画（案）」に係る答申に対する通知について

○その他（公開）

## 3 開催日時

令和8年1月27日（火）午後6時00分から午後6時45分まで

## 4 開催場所

板倉区総合事務所 2階 201・202会議室

## 5 傍聴人の数

1人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）

・委員：小林会長、植木副会長、秋山委員、新井委員、釜田委員、小林委員、  
深石委員、藤原委員、南委員、山本委員

・事務局：板倉区総合事務所 宮下所長、小林次長、名倉次長、佐藤産業グループ長、長谷川市民生活・福祉グループ長、丸山教育・文化グループ長、  
千葉地域振興班長、宮崎主事

## 8 発言の内容（要旨）

【小林次長】

・会議の開会を宣言

【小林会長】

- ・挨拶

【小林会長】

- ・条例第8条2項の規定により、半数以上の委員の出席を確認。会議の成立を報告。
- ・会議録の確認を釜田委員に依頼。

では、3自主的な審議、「住民ワークショップ成果報告と今後の方向性について」、事務局から説明をお願いしたい。

【小林次長】

- ・「令和7年度 地域フォーラム・ワークショップ・地区まち交流会報告書」を説明

【小林会長】

委員の皆さんからも、それぞれの立場でワークショップに参加いただいた。一言ずつ感想と、今後どうあるべきか考えがあれば発表をお願いしたい。

【植木副会長】

いろいろな方とお会いできたことがとてもよかった。また、区内小、中、高校の校長たちと話す機会があり、ワークショップへのお礼を言われてうれしかった。特にコミュニティバスについてはPTAの皆さんも思うところがあり、発言できる機会を得られてよかったようだ。これからも、未来を担う子どもたちのためにPTAの方々の意見を聞ける場があるといいと思う。

【山本委員】

私もいろいろな方と意見交換ができてよかった。また、舞台上で皆さんに説明するという、非常に緊張感がある経験ができてよかった。各チームから出された提案では、まちづくり振興会が中心となってほしいという意見が多かったが、任せて終わりでもいいのか疑問が残る。

【南委員】

私はまちづくり振興会のメンバーの立場で参加した。皆さん、板倉区をよくしたい、地域をどうにかしたいという思いがあった。いろいろな発想があったが、最終到達点のハードルが高く、また、誰が中心になってどう動かしていくかが問題であ

る。まずは手の届くようなところから積み上げていくことしかできないだろうと感じた。このフォーラムを通じて、一つでも実現できるよう進めていきたいという希望と、しっかりやっていかなければいけないという気持ちが生まれた。

**【藤原委員】**

様々なアイデアを聞かせていただいたのは非常に楽しかった。実現性という点では、いろいろと精査しなければいけないが、まずは、何かやろうというアイデアが出て、それをみんなで議論するということが非常にいい経験であった。せっかく出たアイデアであるので、一つでも二つでも実現できればいいと思った。

**【深石委員】**

私たち地域協議会のチームは、平場ベテランチームとして「移住促進と住居整備」をテーマにまとめた。いろいろな方と一緒に取り組む中で、仲間意識が高まったと思った。今後どのように進めていくかは課題が山積みだと思うが、一つでも実現できるように微力だが取り組んでいきたいと思っている。

**【小林委員】**

今回は「移住促進と住居整備」をテーマにしたチームに参加した。その中で、誰がどのようにやっていくかが話題になったが、まず短期の内容からでも少しずつやっていけるように、チームで努力していかなければいけないと思った。私も楽しく参加させていただくことができ本当に良かった。

**【釜田委員】**

私は聴衆者として参加した。様々なデータをグラフ化したり、将来像を具体的な数字で示していたり分かりやすかった。例えば、私の町内会へ一組でも移住者が入ってくると、将来的には大きな数字として変わるということがグラフから分かった。こうした資料をワークショップに来られた方にだけ見せるのではなく、多くの皆さんに知らせる方法を考えていただきたい。そうすると、こんなことができるんだ、こんなことになるんだ、だから頑張ろう、もう少し注視しないといけない、という考えにつながると思う。広く周知することによって効果が広がるので、今後の課題として検討していただきたい。

### 【新井委員】

今後、どこが中心になって進めていくかが大事である。私が参加した山間地ベテランチームでは、特産物を作るということを上げたが、味噌作りなども高齢化でできなくなってきたという状況もある。山間地ヤングチームには、板倉区の自然や、光ヶ原からの眺望などに魅了され移住された方もいて、光ヶ原高原を整備してほしいという提案をされた。現在の市の施策と逆行しているが、これまでの方針でよかったのか、整備を復活する必要はないのか、改めて考えていただけるとありがたい。

### 【秋山委員】

聴衆として参加した。まず素晴らしいと思ったのは、地域の課題を皆さんが意識されているということ。私の知らないような課題もたくさんあった。また、グループ内の様々な意見をまとめ、発表するという才能がある方が多くおられた。プランができて、あとはどのように第一歩を踏み出していくか、協力し合いながら進めていきたいと思っている。

### 【小林会長】

私もワークショップに参加した。これまで発言する場がなかったということもあって、皆さん真剣に板倉への思いを発言されていた。板倉をなんとか元気にしたいという思いが伝わってきた。

皆さんの感想にあったように、これからが大事である。この貴重なデータをどうやって共有化していくのか。地域協議会が取り組むテーマのヒントとなる非常に貴重な資料だと思う。地域協議会としては、発表された6つの柱（テーマ）の中から、3つの部会で割振りをして取り組んでいきたいと思っているが、いかがだろうか。

（異議なし）

では、今まで部会で取り組んできたテーマについては、3月末を目途に区切りをつけていただき、ワークショップで提案された柱（テーマ）の中から、新たに取り組むテーマを皆さんから考えていただきたい。次回の地域協議会までに事務局で取りまとめをお願いしたい。

ワークショップで得たつながりを大事にしていけないといけない。また、地域協議会の役割として、何か仕掛けや仕組みを作っていないと、これで終わってしまうので、行政、関係団体と話し合いを進めていかなければならない部分がある。今回のメンバーにも、今後どのように進めていくか意見を聞く場を作り、それらを参考にして地域協議会として考えていきたい。

【小林会長】

質問はあるか。

【釜田委員】

具体的にどのように天気図を作成したのか説明をお願いしたい。

【小林次長】

「天気図」は地元関係図を使って、期待できる団体や頑張っている団体に高気圧の青いシールを貼り、少し課題がある団体には低気圧の赤いシールを貼ったものである。そのほか、団体間のまとまりができている所には温暖前線、意思疎通が不足している所には寒冷前線で結んだ。

これらの作業は何か答えを出すものではなく、お互いの意見の共通する部分や異なる部分を知ることが目的であった。各自が思い思いにシールを貼っていったため、シールの位置が散らばったり集中したりしている。

低気圧や寒冷前線のシールは、個人攻撃やマイナスの話に繋がらないよう心がけて貼っている。今後の奮起に期待を込めてシールを貼っているのでご理解いただきたい。

【小林会長】

続いて、4 報告事項「上越市過疎地域持続的発展計画（案）に係る答申に対する通知について」、事務局から説明をお願いします。

【千葉地域振興班長】

答申した上越市過疎地域持続的発展計画（案）について、地域政策課から「上越市過疎地域持続的発展計画（案）について（通知）」のとおり通知があった。現在、パブリックコメントの意見募集を終え、結果公表に向けて準備を進めている。

【小林会長】

5 その他、事務局から何かあるか。

【佐藤産業グループ長】

板倉保養センター（ゑしんの里やすらぎ荘）における令和8年4月からの利用料金について、次回の地域協議会で報告させていただく。

【千葉地域振興班長】

- ・次回の地域協議会について

【小林会長】

以上で予定した議題を全て終了する。

【植木副会長】

- ・閉会の挨拶

【小林次長】

これで、第6回板倉区地域協議会を終了する。

9 問合せ先

板倉区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL：0255-78-2141（内線123）

MAIL：[itakura-ku@city.joetsu.lg.jp](mailto:itakura-ku@city.joetsu.lg.jp)

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。